

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和5年1月13日(金)

みんなの居場所

【雑感】

年末、「強い組織」について考える時間があった。だいたい調べ物をするときにはネットが多いが、今回は書店の自己啓発コーナーで買った。こんな言葉を聞いた。「強いチームというのは、指図された通りに動くだけではない。各々がイマジンネーションを膨らませて、それぞれの状況に応じて何をすればいいかを考えだすチームです。《中略》ルール作りも大事ですが、本当は一人一人のモラルが少し上げればチームはものすごくよくなるのです。決断事をたくさんつづめるチームはあまりレベルの高いチームではないのです。」

雑感SP「年生入卒業前準備」

パート① ～ 反抗期 ～

正月明けには、たまに新成人のマンネの悪さが新聞に掲載されます。例えば、式典の最中であるにも拘らず、外に出て携帯電話で大声で話していたり、タバコのポイ捨てをしたり、新成人がする行為ではありません。そこで大人が注意するのは、まずは話を聞かす、まるで小学校の高学年頃から徐々に始まる反抗期が、まだまだ続いているような感じですね。担任させて頂いた世代は、成長した姿を見たいのと同時に、「式典でヤンチャしないかと心配」もあります。

小学生や中学生に目を向けてみましょう。嫌なことを避けて生活している人は、その部分を指摘される、黙ってしまう、精神的にまだまだ未成熟時期で、仕方ないところなのかもしれません。でも、此れ、壁を越える経験を積んで、少しずつ心が成長していくのです。6年生は、あこがれ月足らずで中学生となりますが、教科担当の先生が授業をされ、小学校のよつその先生方が子供個人のことを深く知ることでも難しくなっています。

これが「中一ギャップ」のことです。人は初対面の人に対して、「こんなことを言います。」「あの人は第一印象がよかった。」「何を基準に判断しているのか?」「それは話し振りの、受け答え、態度、身振りのことで相対、時間、場所、目的などによって行動を学びたいかなければなりません。中学校はその第一歩です。かといって人の様子はかりうかがって、人によって態度を変えるのは、信用がなくなってしまう。どうしてか? とこんな時、どんな人にも優しい公平な心で接することが大切です。大変難しいことですが、それを学ぶことが、成長の土壌になります。

「中一ギャップ」を家庭でも話題にして、卒業に向けての親子の対話の時間を持つて頂きたいから始めるのであつ「難」の時期を乗り越えていってほしいなあと感じています。多分、一部の家庭は「この時期がスタートしている」とはなっていないか? 私の子育ての中で経験しました。

シリーズ「自分を語る」#2

平成17年度、持ちかかりの6年生を担任させて頂いたのが、嬉しく責任の重さを感じつつ、新学期がスタートしました。

新学期早々から話が出ていたのがキャンパスの話です。昨年度のキャンパスは、また額に汗を流して行っていました。今年も楽しんで「お言葉」を聞かれました。「ナイトハイフがあれだけきついなだから、キャンパスのびびりねえ。」と子供達もいました。私も何となく思っていました。キャンパスは思いつく部分を含めて「たい」と思っていました。食事の準備もいのですが、それ以外の場所を委ねて「よる」「非日常」の中で「このメンバーだから楽しんで」と言えるような何かをしたいと思います。

家庭訪問中、ある保護者からのホセキ…「今年のキャンパスは、きつかったです。」「確か「自然の家」は宿舎があるじゃあ…(ニヤニヤ)」

思い立ったの行動です。学級委員さんと相談して大丈夫な期日を定め、「熊本県立あきた青年の家」に仮予約を入れました。仮予約している間に、学級委員のモチベーションを上げ、保護者の協力を仰ぎつつ準備を進めました。予想通り、子供達は全員参加、保護者の参加もアツク参加して頂いたのでした。あきた青年の家と自然の家は、山を走る活動が有名です。また、山の斜面を利用したローラーリュージュ等の活動も有名です。食事はハイキング形式で、開所してあまの時間が経っていないので宿舎中にもまわりました。

活動のメインは何と云っても海水浴です。昨年度、真夏の登山を終った私達、もっと涼やかなイメージでキャンパスにしたいと思っていました。(実際はバタな雲間風の海水浴ですが…)。型置、海入移動です。水着は家で着たところ子供も朝の10時頃から泳ぎ始めました。遠浅の海岸で波も穏やか、ファミリーシャワーはものすごくいい場所です。また、保護者の参加や以前の教員達のサポートもあり、海水浴場での安全性も限りなく高かったです。教員も泳いだ後は、ある子供達が「お風呂」で「先生」を埋めてもいじりますか?」「言ってますよ。」「先生を埋めるなんて10年早いわあ!」「と云いつつ、素直に砂浜に横たわりました。子供達があつと質問に群がり、大量の砂を盛りました。そして恒例の記念撮影です。「カシャーカシャー」あちこちからシャッターの音が聞こえますが、私は眩しさを思いません。このように埋められているのか全然分かりません。後で写真を見ても「何?」女性の体を模して砂で埋められているのはありませんか?「道連れ?」と笑います。そんななかで、楽しんで海水浴しました。子供達は「初めて先生を埋めた。」「か?」先生を埋めるのができるのは俺だけだ!」「等々自慢していました。夜はクラフト活動でキーホルダーを作り、次の日はあいの雨でローラーリュージュができました。ただ、体育着も埋められる船場の効いた快適な施設の中で「コースホーンを築いていこうと思います。」

このおもしろいキャンパスが、澤田組での定番になっていきました。(ついで)

※ 「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。(「みんなの居場所」への掲載の可・不可)